

パートナーシップ制度検討に関する意見交換会結果報告

意見交換会では、性的少数者当事者やその家族の方11名にご参加いただき、これまで当事者として感じてきた困難さや、制度導入にあたってのご意見をいただきました。

1 日頃感じている（これまで感じていた）困難さ

主な意見

- ・自分のことを家族にも友達にも話すことができない。
- ・家族の理解がなく、家族関係も悪化した。
- ・同性同士で部屋を探すときに理解してもらえなかった。
- ・入院や手術の際に、パートナーを緊急連絡先の1番にすることができなかった。

2 パートナーシップ制度に望むこと

主な意見

- ・制度を導入することにより、市民理解が広がること。
- ・具体的なメリットだけではなく、この制度があるだけで、行政が存在をみとめてくれたという安心感がある。
- ・当事者が身近に存在することを知ってもらうための契機となることと。
- ・引っ越しや医療現場での手続きがしやすくなること。
- ・早期の導入を望む。

意見交換会の取りまとめ

- 性的少数者の当事者やその家族の方は日常生活において、家族や友達などに打ち明けることができず孤独感を抱いていることや、引っ越しや医療現場での手続きの難しさといった困難さを感じている方が多かった。

パートナーシップ制度については、市民の理解をさらに深めるとともに、できるだけ早い制度の導入を望んでいました。



- 【まとめ】 ・市民理解のさらなる促進を図ること。
・スピード感をもって制度を導入すること。